

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立斐太高等学校

学校番号 57

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>人間尊重の精神を基調として、知・徳・体に調和のとれた人間性豊かな生徒を育成し、将来国家社会の構成者として、一人一人がその能力と特性を発揮し、有為な担い手となることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none">1 歴史と伝統を重んじ、切磋琢磨の精神に則り、自学自習の気風を高揚する。2 愛情と信頼を基盤として、自由にして節度ある人間関係を醸成する。3 健康と体力を増進し、確乎不拔の精神と創造性豊かな実践力を育成する。
----------	--

2	評価する領域・分野	◇ 教務		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート等の結果から、本校の教育目標への評価の高さが感じられ、入学満足度の高さにつながっていると思われる。 教科指導に対して、選択授業・少人数授業に内容理解の促進への評価は高いが、個別指導への期待は依然として高く、一層充実した個別指導に努める必要がある。 授業や年間行事の編成に対して、個々の進路希望の実現に向けた授業編成や、年間行事等の実施についての一定の評価はあるが、変わりゆく教育環境を常に意識し他分掌等と連携しながら教育内容の充実を図る必要がある。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇新しい教育課程への円滑な移行に向けて課題を検討し解決を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストや新教育課程など、変わりゆく教育環境に応じた取組を研究し、さらなる授業改善を図る。 個々の進路実現に向けて、生徒が日々の学校生活を滞りなく送ることができるように努める。 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程委員会をはじめとする各種委員会、学年会、教科会において情報共有しながら、教育課程や指導計画、行事を検討する。 生徒による授業評価や職員間の授業交流、入試問題研究、またICT機器を活用した新しい授業形態を研究し交流することで授業力の向上を図る。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 教育課程委員会及び学習指導委員会等で、調査の分析結果等を元に今年度の教育内容の検証と反省とを行い、来年度以降の教育計画や指導計画に活かす。		(1) 学校評価アンケートの結果分析		
(2) 年1回生徒による授業評価を実施するとともに、前・後期それぞれ2週間の授業交流期間の設置、また各教科での研究授業や、他校での授業や研究発表視察での情報共有を行い、授業力向上に努める。		(2) 授業評価の結果分析		
		(3) 家庭学習時間調査		
		(4) 全国模試の結果		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学年会で調査結果等の分析を行い、教育課程委員会、学習指導委員会等、各種委員会で改善のための課題を発見し具体的な計画や指導方針を立てている。 生徒による授業評価、教科を超えた授業交流や研究授業を通して授業改善に努めている。 		①教育課程や指導計画等を積極的に見直し改善に向かえたか。	A B C D	
		②学校全体として組織的に取り組めたか。	A B C D	
		③生徒の深い学びを促す授業が展開できたか。	A B C D	
11	成果・課題	総合評価		
○各種委員会等で今年度までの教育活動の課題を分析し、来年度以降に向けた教育活動に対する課題解決に努めることができた。 ▲新しい教育課程の実施を前に、生徒個々の進路実現を念頭に、本校で育てたい生徒を、学習活動・行事・課外活動等の中でどのように育てていくか、具体的な方針を共有できるとよかった。 ○授業を工夫し生徒が主体的協働的に学習する機会を提供することができた。 ▲上記の機会を深い学びにつなげ、さらにはそれぞれの進路実現に向かうための確かな学力の定着へと結びつけるためのもうひと工夫が必要であった。		A B C D		
12	来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> 変わりゆく教育環境の中で、どのような生徒を育てていくのかを再確認する。 生徒が個々の進路目標実現に向けて学習・行事・課外活動をバランスよく行うことができるよう、各分掌・学年・教科会と連携して考え、具体的な指導内容や方法を提案できるようにする。 				

II 学校関係者評価

実施年月日：令和元年7月5日

【意見・要望・評価等】

- 少人数・選択授業により生徒の理解を高めようとする努力は評価するが、個別の能力に応じた指導についてはもう少し研究して適切な指導を行ってほしい。
- 進路希望の実現に向けて効果的な授業編成がなされており、教科外活動も充実しているが、教育内容について、生徒や保護者の意見も反映させてほしい。
- ICT機器活用場面が今後ますます増加する中、情報モラルやリテラシー能力の育成に努めてほしい。

2 評価する領域・分野	◇進路指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者対象アンケートでは、進路に関する情報提供に関して概ね85%以上の肯定的評価を得ている。今年度は、特に新入試制度に向けて得た情報を保護者宛に発信したことが理由であると考えている。これからも、来年度から始まる新入試の情報についての教員間の共有、保護者への情報提供を継続して、進路に関するアドバイスについても評価を上げていきたい。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じて、地域社会に貢献できる学力・能力をもった人材育成を目指す。 ・キャリア教育に力を注ぎ、能力・適性を生かした自己の在り方・生き方を考えさせる。 ・一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、主体的に進路を考え、目標を達成できるようサポートする。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部内との協力体制の強化 ・学年会や他分掌との連携を強化 ・地元企業や、本校卒業生等との連携 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) S G Hの取組 (2) 講座、説明会及び大学見学会等の開催 (3) 看護体験、入試研究会等への参加 (4) インターンシップ及び地元企業ガイダンスの開催	(1) 生徒及び保護者のアンケート及び感想文 (2) 生徒のアンケート (3) 生徒の感想文		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・S G H：地域活性化プログラム（2年）地域のもつ課題を発見し、問題解決に向けた提案を行う。 ・S G H：社会人講師による講話（2年）：地元で働く社会人講師の講話から地域の魅力や課題を認識。 ・S G H：コミュニケーション活動（1・2年）：英語ディベート講習及びエンパワーメントプログラム（希望者）による英語コミュニケーション能力の育成及び海外研修（希望者）での実践。 ・学部学科ガイダンス（2，3年）：進学後に学ぶ内容についての大学教員からの講話。 ・職業講話（1年）：卒業生の社会人から、地元での「起業」をテーマにした講義を実施。 ・保護者対象の説明会や情報提供、学年集会等での新入試についての周知を例年以上に実施。 ・希望者の東大見学会や難関大入試研究会等へ参加。 ・1，2年希望者の看護体験やインターンシップに参加。 ・3年の一部に地元企業ガイダンスに参加。午前中に「起業セミナー」を実施。 	①職員が組織的に取り組めたか ②生徒が積極的に参加したか ③生徒が満足できたか。	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○S G Hの地域活性化プログラムでは、地元企業や大学等の協力を得ながら、生徒の課題発見・解決能力を育成することができた。 ○S G Hのコミュニケーション能力育成プログラムでは、英語コミュニケーション能力だけでなく、グローバルな視野も含め、育成することができた。 ○学部学科説明会や社会人講話、地元企業ガイダンス等で、進学後の学びやUターン就職、起業も含めたキャリア形成についての情報を与えることができた。 ▲新入試制度について情報提供を行ったが、未だに変更や未定の部分があり、まだ詳細が決定していないこともある。今後も情報収集と対応を強化したい。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・新入試制度の対応と指導を学年会や他分掌と連携して行う。 ・3年間の進路指導計画に基づいた進路指導の共有。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和元年7月

【意見・要望・評価等】 <学校評価アンケートより>
<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供に関する肯定的評価（生徒：90.0% 保護者：91.0%） ・進路指導に関する肯定的評価（生徒：88.5% 保護者：85.0%）

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なモラルやマナー、服装や身だしなみの指導について肯定的に捉えており、生徒自身も自覚を持って行動している。 交通安全や防犯、防災面についての指導、情報の周知徹底について十分理解されている。 多様な生徒やその家庭に対して、幅広く対応できる体制や校外との協力関係など周知を図る必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇高等学校教育指導の方針と重点に則り、様々な教育活動を通じて、生徒一人一人に規範意識と倫理観を体得させ、明るく活気に満ちた校風を樹立できるよう指導する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による登下校指導と生徒指導部による校門、校外指導 「授業規律の確立」（ベル席・端正な身なり・きれいな教室） 全職員による生徒指導体制の確立 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 交通安全指導と校門指導での遅刻の防止 (2) 生徒との対話を通じていじめの未然防止 (3) 講話・講習会による情報リテラシーの醸成 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 5分前登校の呼びかけ（8時5分） 自転車安全運転チェックシート（年2回） (2) クラス居心地度調査（年3回実施） (3) 情報モラルチェックシート（年3回実施） 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 朝の交通指導（校門・東門・旧久美愛交差点・JA看護寮）校外（日枝神社、八幡神社周辺）での交通指導、JRや濃飛バスの乗車指導 MSLによる啓発活動 クラス居心地度調査 生徒への講話、情報モラルチェックシート 	<ul style="list-style-type: none"> ① 過去5年間との比較 ② 生徒・保護者による学校評価 ③ アンケート結果の比較 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果・課題	<p>○交通事故については、命に関わるような大きな事故はなかった。交通マナーについては、さらに指導を継続していく必要がある。</p> <p>○生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、服装や身だしなみについて生徒の自覚が見られる。</p> <p>▲情報モラルについては、拡大・多様化するスマホの利用について、教員も研修を積み、徹底した生徒への指導が必要となってきた。</p> <p>○近年、豪雨や台風による災害が顕著となり、また大規模な火山や地震災害も懸念される。生徒の自主的な防災能力の涵養を多面的に考えていきたい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル、交通安全に関する指導は年間を通じて指導する必要がある。また、それらの指導を生徒の自律的な姿勢の醸成につなげたい。 今年度末より急傾斜地崩壊対策事業が始まる。校内での生徒の安全確保に万全を期したい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和元年7月5日

【意見・要望・評価等】

- 生徒が自主的に自覚を持って活動していることが伺える。今後ともこの雰囲気を継続してほしい。
- 女子生徒の制服で黒タイツを認めていないことについて、学校の対応はどうなっているか。

2 評価する領域・分野	◇ 教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生がいる」に関して、昨年度より微減したが、80%以上の生徒が肯定的に評価している。 ・「学校では教育相談係が個々の生徒に対して適切な指導を行っている」に関して、70%以上の保護者が肯定しているが、わからないと答えた保護者が20%おり、広報活動がさらに必要だと思われる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「教育相談の心を校内に広めよう」(校内支援システムの確立と充実)職員会議、学年会、教科担任会議、職員研修等による教育相談体制の充実と連携強化を図り、全職員による教育相談を実践する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームを適宜編成し、具体的な支援方法を研究する。 ・教員間の情報交換や共通理解を深める。 ・専門家によるスクールカウンセリングを活用し、支援の充実を図る。 ・心理検査「アイチェック」を実施し、クラスの把握や生徒支援に役立てる。 ・人権教育を推進し、広く人権に対する意識の高揚を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 担任や学年会および関係分掌等と連携を積極的に実施。 (2) 生徒や保護者へのサポートの実施。 (3) 外部機関との連携強化。 (4) アイチェックの結果の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> (1・2・3) 意思疎通の状況、生徒支援状況。 (4) 検査の分析と利用状況の分析。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年団と連携、情報交換を行った。 ・生徒や保護者との懇談を適宜実施し、支援を行った。 ・外部機関や生徒指導部、保健室と情報交換をし、連携を行った。 ・職員会議等を利用し、情報交換と支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制は適切であったか ・生徒や保護者の思いに叶うものであったか。 ・連携がとれ、情報交換や協力体制ができているか。 ・情報交換や協力体制がとれているか。 	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○悩みを抱えた生徒に対して、関係職員との連携を取りながら支援を行うことができた。 ○積極的に外部機関や専門家との連携をとることができた。(スクールカウンセラーの活用や中学校などとの連携) ▲より良い支援体制作りと支援の充実を図る。 ▲長期休業明けに学業に対する躓きから、登校を渋る生徒が出てきている。事前の声かけや励ましの必要性を感じる。 	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・担任・生徒・保護者への支援体制について継続的に検討、研究を行う。 ・必要に応じて、ケース会議を開き、校内での連携と支援に努める。 ・配慮を要する生徒の早期発見とその生徒への適切な対応と支援に努める。 		

2 評価する領域・分野	◇ 図書広報		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：本の貸し出し冊数は増加したが、図書館をよく利用する生徒と利用しない生徒の二極化が課題である。 ・広報：アンケートによれば、本校の情報発信力・各種広報活動（オープンキャンパス等）については概ね高い評価をいただいている。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒を中心とした図書委員会活動を支え、図書館の環境を整える。 ・広報：多岐にわたる広報活動のスムーズな運営と内容の改善。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書委員の活動を通じ、多くの生徒に読書を勧める。ホームルーム・授業での図書館の活用を増やす。 ・広報：他分掌との情報の共有と全校体制での取り組み。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒の読書活動を促すために、行事等との有機的な連携を図る。また、図書館の利用簿を見直すなど、先生方にも図書館の利用を働きかける。 ・広報：分掌内及び他分掌との綿密な情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書の貸出し数の確認、図書館の利用頻度の確認。 ・広報：行事ごとに実施するアンケート結果の分析。 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：文化祭への積極的参加や掲示板の活用による図書館のPR、学級文庫の設置、ビブリオバトルへの参加、LHRや授業での図書館の活用の推進。 ・広報：学校説明会の資料作成、学校案内の作成 斐太高OC・中学校一日の実施、学習サポートの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒が中心に運営できたか。また、図書館の積極的な使用がなされたか。 ・広報：昨年度の反省を踏まえより効果的なPR活動ができたか。 	A (B) C D (A) B C D	
11 成果・課題	○図書広報部が新規発足してから3年目となった。少ない人員ながらも広報活動の内容は多岐にわたるため、業務の効率化と精選を意識した。その一方で前年度の内容をそのまま踏襲することなく、必ず新たな要素・工夫を盛り込みながらその充実を努めた。図書部門においては、司書を中心に生徒が主体の読書活動を企画・運営したほか、ビブリオバトルでは生徒の積極的な取り組みもあり、全国大会へ駒を進めることが出来た。広報部門においては、全校体制で臨む行事がメインになるが、分掌及び全職員の協力のもと、前年度の反省を踏まえつつも、生徒の主体的な運営を念頭に運営した。 ▲読書活動のより一層の推進と広報活動の内容の充実。ホームページ等を通したタイムリーな情報発信。		総合評価 (A) B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：図書館が生徒にとっても先生にとっても居心地の良い空間であることを確保しつつ、なるべく多くの生徒が図書館を訪れ、読書に励むような環境作りの工夫をしたい。 ・広報：広報活動全般については、斐太高校の魅力をこれまで以上に伝えるために、行事ごとのアンケート結果を詳細に分析し、その内容改善を図っていききたい。HPは、部活動をはじめとするコンテンツの充実を努めるなど、より見る人のニーズに応えられるものにしていききたい。 		

2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は生徒を中心として全校体制で取り組まれており、保護者の協力や理解も得られている。 ・学力の伸長だけでなく、健全な身体、豊かな心の成長を含めた人間を育成しようとする校風が感じられる。 ・生徒会活動や部活動は活発に行われており、生徒の充実度も高い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校行事や生徒会活動が円滑に行われるよう努める。また、諸活動を通して、主体性を高め、社会に貢献できる資質を育成する。充実した部活動等により自己肯定感を高める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌や学年との連携を図る。 ・諸活動が充実するよう生徒会執行委員や各実行委員会、ホームルーム委員などとの連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒会執行委員及び各実行委員会の充実 (2) 全校体制の組織づくり・運営	(1) 生徒・職員各種アンケート結果の分析 (2) 生徒会執行委員・議会等の意見の集約	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭は、実行委員会や生徒会執行委員を中心として活発に運営されている。 ・部活動加入率は95%を占め活発に活動しており、全国大会出場の一部が複数ある。 ・生徒会執行委員は全校生徒の意見をまとめ、「校長先生と語る会」等で要望を提示し実現をはかる等、生徒の代表者としての責任を果たしている。 	①生徒が主体的に諸活動に取り組んでいるか。 ②部活動は適切に運営されているか。 ③課題を見つけ、自主的に解決しようとする態度が育っているか。	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○文化祭など諸行事は、実行委員会や生徒会を中心に企画・運営がなされ、生徒の主体的活動の場となった。 ○部活動等において、体育系・文化系ともに全国高校総体・全国総文祭に出場する部が複数あったなど活躍がみられた。 ○被災地域に対しての募金活動を実施。ボランティア精神の涵養に貢献できた。 ○意見箱やアンケートによって生徒の声に耳を傾け、要望の実現に取り組んだ。 ▲今後も諸活動と学業がバランスよく行われるよう支援していきたい。	総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・諸活動に携わる生徒は毎年異なるため、実行委員会の立ち上げなど早めに準備に取り掛かり、生徒の主体性を尊重し、職員との連携を密にして諸活動の質的向上を図る。 ・生徒会活動や部活動など、生徒の積極的な課外活動に理解を示し、学業とのバランスを図りながら一層充実した学校生活を送れるよう、支援する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和元年7月

【意見・要望・評価等】 <学校評価アンケートより> <ul style="list-style-type: none"> ・学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとしている。 ・生徒の成長の糧となるような学校行事を行っている。 ・部活動が適切な管理体制の下、活発に行われており、且つ適切に運営されている。

2 評価する領域・分野	◇保健管理・環境整備	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・校内美化について、保護者や生徒を対象とするアンケート結果から、概ね良い評価を得ている。通常清掃に加え、各学年で実施している朝の廊下掃除等の成果と思われる。一方で、階段のほこりが目立つため、地道な清掃活動を継続したい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇校内美化を推進し、学習環境等を整える ◇生徒の自主的な健康管理を促進するための情報提供を図る	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒会による保健委員会や厚生委員会の活動促進 ・保健だよりなどの配付物や掲示物によるなどの広報・啓蒙活動	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 保健だよりや掲示物、職員研修(救急救命法)の充実、生徒情報の共有 (2) 保健講話(薬物乱用がテーマ)の実施 (3) 通常の清掃活動と厚生委員によるゴミの分別収集確認 (4) 保健委員・厚生委員による点検の実施 (5) 安全点検の実施	(1) 生徒の健康管理(出欠状況、検診後の治療等)の確認 (2) 掃除の徹底、ゴミの分別等の状況確認 (3) 職員・生徒による日常点検および点検表の集計・対応(修繕や補充等)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・保健だよりの発行、救急救命法講習会の実施、生徒の検診結果等の情報提供 ・掃除の時間は全校体制で臨み、厚生委員を中心としてゴミの分別を点検・指導する ・点検により指摘された修繕箇所等について、修繕や補充を依頼する	①生徒の健康管理(出欠状況、治療等)の確認 ②点検結果の考察、日常点検、ゴミの分別状況の確認 ③修繕等、改善状況の確認	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
○保健委員や厚生委員は日常の活動や行事における活動に積極的に取り組むことができた ○救急救命法講習会では職員が積極的に参加し、講習会では、薬物乱用や熱中症対策について理解を深めることができた ▲ペットボトルやビンのキャップの分別方法を変更し整理することによってごみ箱の数が減ったが、その他の分別が十分でない		
12 来年度に向けての改善方策案 ・保健だよりなどの広報活動を通じて、生活習慣の確立を図り自主的な健康管理の促進に努める ・生徒の委員会活動を一層充実させ、環境整備や健康管理の充実を図る ・ゴミの分別や減量化に向けて周知を図る		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和元年7月

【意見・要望・評価等】

<学校評価アンケートより>

- ・校内美化について、概ね良い評価をいただいているが、一方で分別方法がはっきりしないという意見や上手く分別されずにゴミが混じっているという意見もあり、分かりやすい分別方法の検討・周知が必要となる。

2 評価する領域・分野	◇ 渉外		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会主催の各種行事において役員会・学年委員会を中心に積極的に取り組んでいる。 ・学校行事の文化祭・体育祭・マラソン大会への参加は多数ある。 ・育友会総会への一般の会員の参加率は必ずしも十分とはいえない。 ・昨年度より有斐会総会の運営を有斐会理事の担当者が中心となって運営していただいております。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会及び同窓会の活動の見直しを図る。 ・各行事の準備、運営を確実に行う。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・参加意欲を高めるための方策を個々の行事に即して検討していく。 ・行事後のアンケートを分析し、会員の要望を明らかにしていく。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 文化祭バザーの成功のため、育友会実行委員会と連携を取りながら実施する。 (2) P Tフォーラムの事前アンケートの実施と講師選考、進行方法の検討により、参加意欲を高める。 (3) 有斐会理事会の予定を早めに決め、参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 準備・運営が確実にできたか。 (2) 事前アンケートの質問に答えられたか。活発な意見交換と保護者の満足度 (3) 有斐会の実質的な活動が行われたか。 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭バザーは年々、前年度の反省をもとに開店時間、分担、ご飯の量の検討など改善・業務の引き継ぎを行ってきた。 ・P Tフォーラムは昨年の事後アンケートを受け、春先より実行委員会で講師選考、進行方法、事前アンケートをどのように活かすかを検討し、参加者が何を期待しているかを考え講師との連携を取りながら計画を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①滞りなく運営できたか。 ②活発な意見交換が行われたか。 <p>アンケートによる評価</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭バザーは、経験豊富な実行委員が多く、昨年度の反省を活かして運営できた。 ○P Tフォーラムは国公立大学進学者、私大学進学者、浪人経験者を講師とし講話のあとは、質疑の時間とした事で一方的にならず、事後アンケートの評判も良かった。 ▲P Tフォーラムの父親の講師選考が例年通り難航した。 ○県高P連のP Tフォーラムの実践発表校であり、年度初めより準備し無事終えることができた。 ○有斐会総会の座席割り等を有斐会役員にやっていただいた。 ▲育友会行事が盛大に行われるために役員や職員の大きな負担があった。 		<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の育友会実行委員の熱心な取り組みにより行事の運営がスムーズに行われている。見直しの必要な行事はないか検討したが、来年も同様に行う事になった。役員の手当について、来年度より体育祭、卒業式では廃止することになった。 ・P Tフォーラムは昨年度に引き続き、事後アンケートで良い評価をいただいた。父親代表講師の選考が難航し、結局、実行委員より選出された。進行についての事前準備、講師とのメール等による事前打ち合わせなど多くの人の協力を必要とするので、早めの計画に心がけたい。 ・有斐会と学校とのかかわり方についていろいろと改善中である。 			

2 評価する領域・分野	◇地域連携、探究活動推進	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート等の結果から、授業以外の学習の機会が多いと評価されている。本校が取り組む地域活性化プログラム、コミュニケーション能力育成では、教員以外の方々から学ぶ機会が多く高い評価を得ていると思われる。 生徒が主体的に地域と関わる機会が増え、ボランティアに関する意識も高まっている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究（1年生）、総合的な学習（2,3年生）の推進による課題発見力課題解決能力の育成。 SGH（スーパーグローバルハイスクール）の活動推進による主体的な地域の課題解決能力の育成とコミュニケーション能力の育成。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動推進部内での情報の共有と協力体制の確立。 学年会や他分掌はもとより、地域の諸機関との連携強化を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1)「総合的な学習（探究）の時間」の計画にもとづいた学年団、教科団との連携。 (2)地域の諸機関との連携をとり、学校外での生徒の活動の場を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)学校評価アンケートの結果分析 (2)外部機関のPDCAサイクルに基づいたアンケート調査 (3)年度末の生徒アンケート 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 各調査の結果分析を行い、分掌内、学年会で改善のための課題を発見し具体的な計画や指導方針を立てている。 外部の人材の意見をききながら、学校外での生徒の活動のあり方の向上に努めている。 SGH：地域活性化プログラムでの調査研究活動 <ul style="list-style-type: none"> 社会人講話 飛騨高山大学連携センター相談会 ディベート講習 エンパワーメントプログラム 海外研修 Hida.T-Academia発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ①諸行事を滞りなく実施することができたか。 ②学校全体として組織的に取り組めたか。 ③生徒が主体的に活動する場を設定することができたか。 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
<p>△今年度から発足した分掌であり、組織的な活動することに努めたが、来年度に向けより整理された組織とする必要がある。</p> <p>○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受け、全国の動向、本校生徒の意識について情報を得ることができた。</p> <p>○地域で生徒が主体的な活動をする場面が増え、積極的に地域の課題の解決に向けて働きかける生徒が増えた。</p> <p>▲「総合的な学習」、「総合的な探究」、諸活動について、目的や意義、内容を教員間で共有することが十分ではなかった。</p> <p>○外部機関の協力を得ながら、生徒が主体的協働的に活動する機会を提供することができた。</p> <p>▲上記の機会が、生徒の進路実現に向かうための筋道を研究し、全体に示す必要があった。</p>	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 物事を主体的に探究する姿勢を育成するために、地域との連携を深めていく。 自分の意見を主体的に発信できるように、諸活動を通じてコミュニケーション能力の育成に努める。 諸行事が円滑に進むように、適切な時期に学校内で情報を共有する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和元年7月5日

【意見・要望・評価等】

- ディベートの授業で中心的なリーダーとなる生徒がいるグループとそうでないグループとの間に活動の差があった。授業方法の工夫を進めてほしい。
- ディベートの授業をぜひ頑張ってもらいたい。役割の理解とその徹底に工夫準備が必要である。